

令和2年度使用 小学校特別の教科 道徳（道徳）調査資料

発行者	調査内容
東京書籍	<p><いじめ問題や命の大切さなどの題材を教材として取り上げる上での工夫について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「いじめのない世界へ」として、「とびらページ」「直接的教材」「間接的教材」の3つの要素からなるユニット式の教材を全学年に配置している。 △ユニット「いじめのない世界へ」は、学年ごと1回の構成なので、その点を補う指導者の工夫が求められる。 <p><考え、議論する道徳を通して道徳性を育成する工夫について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○低学年では、読み物とは異なった形式のゲーム的要素のある教材などを掲載し、様々な活動の中でアクティブに議論させることを促す工夫がされている。 ○全学年に「話し合いの約束」の欄が設けてあり、話し合う際のポイントを確認できる。他者とのコミュニケーションを通して、道徳性を育むための工夫がされている。 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ○情報モラルを扱った教材が全学年にあり、適時に学習できるようになっている。インターネットに関しては4年生から6年生までの3学年で異なる視点から扱っている。
学校図書	<p><いじめ問題や命の大切さなどの題材を教材として取り上げる上での工夫について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○いじめをしない、許さない心を育むために「ともにいきる」マークの教材を、学級経営の視点を取り入れ、学級づくりの理論に基づいて配置している。 ○「ともにいきる」の教材では、身近な題材や名作絵本、人物の伝記や人権に関する教材など多様に掲載し、命の大切さを実感し、いじめに向き合う心を高めるような工夫がある。 <p><考え、議論する道徳を通して道徳性を育成する工夫について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「まなび」には、話し合いや役割演技など学習の取り組み方が記載されている。 △「まなび」では、発問例が記載されている。それにとらわれずによりよい学習を目指したい指導者には工夫が求められる。 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ○漫画形式の情報モラル教材などを通して、日常生活とつなげて課題をみつけるヒントがちりばめられている。
教育出版	<p><いじめ問題や命の大切さなどの題材を教材として取り上げる上での工夫について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○いじめ問題は、直接的教材だけでなく、集団や社会との関わりを考える教材でも間接的に扱っている。 ○いじめ問題や差別問題について考える教材の配置を工夫し、スパイラルに学習できるようになっている。 <p><考え、議論する道徳を通して道徳性を育成する工夫について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材末の「考えよう」「深めよう」「つなげよう」には話し合ったり自分の考えをまとめたりする活動が設けられており言語活動が充実するよう工夫されている。 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ○児童の発達の段階に合わせて電話や学級新聞、メールなどを題材にした情報モラル教材を全学年に掲載している。 △学年ごとの内容項目の配当に特色があるため、偏らないように6年間を見通してのバランスに配慮する必要がある。
光村図書	<p><いじめ問題や命の大切さなどの題材を教材として取り上げる上での工夫について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○全学年、授業開き後の4～8月にかけて、価値項目Bの視点を中心に教材が配置されている。また、「いじめ」を考えるユニット（よびかけ+教材+コラム）が集まっている。 <p><考え、議論する道徳を通して道徳性を育成する工夫について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○定番教材の一部を直したり、教材の一部を漫画形式にしたりして、学年に応じてより考えやすく、話し合いやすくなるように工夫されている。 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ○情報モラルのページは全学年価値項目とリンクされており、3年生からインターネットと関連したコラムがセットになっている。

	<p>△文字がやや小さく、ページに対する分量も多い。学習する際には読解力が必要となるため、指導者の工夫が求められる。</p>
日本文教出版	<p><いじめ問題や命の大切さなどの題材を教材として取り上げる上での工夫について> ○いじめ防止ユニットとして、直接的教材、間接的教材、いじめ防止に関するコラムとして年間3回設定されているおり、各学期を通して取り組むことができる。</p> <p><考え、議論する道德を通して道德性を育成する工夫について> ○教材の末尾にも発問があり、この発問が「道德ノート」と連動しているため、道德的価値について考えやすい。 △道德ノートには自由に書き込める欄もあるが、書き込む内容が指定されており発問が特定されやすくなってしまうため指導者の工夫が求められる。</p> <p><その他> ○全学年に情報モラルについて「正直・誠実」などの価値項目として学習できるような教材がある。取り上げている割合も多く、力を入れている。</p>
光文書院	<p><いじめ問題や命の大切さなどの題材を教材として取り上げる上での工夫について> ○「自分のいのち」「みんなのいのち」として「生命の尊重」について重点的に学ぶ構成になっており、6年間通して取り組めるように設定されている。</p> <p><考え、議論する道德を通して道德性を育成する工夫について> ○40ある教材を使って、児童の実態に合わせて有効的に活用することができる。 △展開部分に、吹き出し発問が設定されていることにより、指導者が発問を工夫したいときに、多様な考えが出にくくなってしまふことが考えられるので、留意が必要である。</p> <p><その他> ○情報モラルのページでは、全学年、児童にとって日常に近い場面を想定した内容になっているなど、発達の段階に応じた教材となっている。</p>
学研教育 みらい	<p><いじめ問題や命の大切さなどの題材を教材として取り上げる上での工夫について> ○いのちの教育を最重点とし、複数教材を組み合わせより深く、より広く学習できる。いじめ防止につながる教材が様々な時期に取り組むことができる配置となっている。</p> <p><考え、議論する道德を通して道德性を育成する工夫について> ○「つなげよう、ひろげよう、深めよう、やってみよう」の4種類の「学び方のページ」を通して、自ら考え、他者と意見を交わし、学習を進めることができる。</p> <p><その他> ○現代的課題について取り扱う教材も多く入っており、情報モラルに関しては、発達の段階や特性等を考慮し、適正な活動を行うためのもとになる考えや態度を養うことを目的にしている。 △児童の問題意識を大切にするため、主題名を記載していないので教科のねらいがずれないうよう指導者の工夫が求められる。</p>
廣済堂 あかつき	<p><いじめ問題や命の大切さなどの題材を教材として取り上げる上での工夫について> ○低・中学年に日常生活をふり返るような教材が多く、高学年には心の揺れや人間関係の理解等の課題を扱った教材があり、道德的価値に深く迫ることができる。</p> <p><考え、議論する道德を通して道德性を育成する工夫について> ○別冊の道德ノートを使い、書くことで自分の考えや成長を確かめることができるように工夫されている。 ○教材名の横に学びのヒントが記されており、教材のねらいにそった学習を進めることができる。</p> <p><その他> ○情報モラルに関する教材が全学年に配置されており、読み物教材だけでなく、特集ページでも具体的な対処方法も挙げられている。 △本冊と別冊は内容が連動していないので、使用に際して指導者の工夫が求められる。</p>